



新入生に送るわれら那高生！

☆真・善・美☆

★和歌山県立那賀高等学校★

令和4年度 入学式 式辞より（抜粋）

新入生の皆さん、今の気持ちは如何ですか。入学の喜びと将来に向かっての期待で胸を膨らませる一方で、これからの本校での学校生活への不安な気持ちを抱いているかもしれません。まずは一日も早く本校での生活に慣れることから始めていってください。

本校は、大正11(1922)年に創立され、今年度、めでたく100周年を迎えることになります。

教育目標に「自ら学び鍛える那高生」と「地域に貢献する那高生」を掲げ日々の教育活動を行っています。

授業での学び、部活動や学校行事での学び、地域活動やボランティア活動での学び、この3つの学びをバランス良く行っていくことを通して、それぞれが自分自身の成長を振り返りながら（メタ認知）、人間力を身に付け、進学であっても就職であっても自らの進路実現を叶えた先に、地域社会のリーダーとして貢献できる人材へとつなげていくという願いを持って日々取り組んでいます。

そのために、次の3つのことを目標に取り組んでいってください。

1つ目は、「自己理解（自分を知る）と他者理解（他者を知る）」です。

これまでの自分自身の歩みを振り返りながら、これから先の自分を想像してしっかりと自らを鍛えていってください。次に、他者とのつながりを持って、自らの視野を大きく広げていってください。同年代・同世代のつながりはもちろん、世代を超えてつながっていくことで、より視野は広がっていくと思います。つながるためのツールとしてSNSなど便利な手段はありますが、それらに頼るのではなく、相手と直接コミュニケーションを取っていくことを期待します。

2つ目は、「自己研鑽と切磋琢磨」です。様々な経験を積むことは何より大切だと考えます。

“We understand things through experience.” 何事においても経験を通して物事を理解する。

まずは、本校での様々な活動の機会を捉えて自己研鑽していく。さらに、クラスで学校行事に取り組んだり、クラブ活動で共に汗を流したりと集団やチームで互いに切磋琢磨して得られた達成感や成成感、個人では得られなかった大きな力となって自らの自信の源となるはずです。

しかし、経験には失敗はつきものです。願わくば多くの失敗の経験をして、それでも諦めず、前向きに取り組んでいく姿勢を養ってください。失敗することは誰しも幾つになっても嫌なもののですが、失敗することから得られる経験は大変貴重です。本校での様々な活動の機会を通して実践していく勇氣を持ってください。

クラブ活動も最近は敬遠されがちな傾向もありますが、運動部であれ、文化部であれ、まずは経験してみてください。経験を積むという観点では、国際科がある本校は国際交流が盛んなこともあり英語教育に力を入れています。そのため、1・2年生の皆さんには英語検定を受検してもらい英語力向上を図っています。是非、色々なことにチャレンジしてください。

保護者の皆様には、お子様の多感な時期でもあり、色々な葛藤もあるかと思いますが、どうかその成長の過程を学校や地域の方々とともに見守り、励まし、寄り添っていただきたいと思います。

3つ目は、これらの経験を活かして「自己の思いを実現（自己実現）し、良き社会人として貢献できる資質を身に付ける（社会貢献）こと」です。それには、生涯を通じて学び続ける姿勢を身に付けることが大切です。単に高等学校を卒業する、或いは大学を受験するための学びだけでは、これからの社会を生き抜いていくことは難しいのではないのでしょうか。

皆さんはこれまで地道に努力を重ね、本校に入学してくれました。自分自身が持っているポテンシャルの高さを信じ、自ら学ぶ姿勢や既知に囚われず発想する力を身に付けていってください。

結びに、新型コロナウイルス感染症については、これまでも、そしてこれからも十分留意していかなければなりません。日頃の感染症対策への意識を高く持って、校内ではICT機器も取り入れながら、可能な限り通常の学校生活が運営できるよう努めてまいります。

保護者やご家族の皆様には、お子様が那賀高校で自らの夢の実現に向けて、自らが行動し、たくましい若者に育っていくという思いを叶えるため、学校運営に対しご理解をいただくとともに、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申しあげ式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

令和4年4月11日

和歌山県立那賀高等学校 校長 森 勝博